

# HOT NEWS

## 雲仙復興事務所

平成23年6月16日

### 無人化施工開始から18年・進化と活用 ～水無川砂防事業 赤松谷川5号床固工～

発信元

雲仙復興事務所  
建設監督官 今村 泰介

無人化施工技術は平成3年からの雲仙普賢岳噴火災害を契機として、平成6年に雲仙で初めて開発された技術で18年目となります。当時の工事は除石の試験工事で始めましたが、技術の進歩と共に、今日ではRCC工法による砂防堰堤・鋼製スリットダム等、大規模かつ複雑な構造物の工事ができるようになりました。施工管理においては3次元のバックホウガイダンスシステム等、IT技術の導入によって5cm単位（土工・コンクリート）での出来形管理も可能となっています。

雲仙方式の技術は、設計から施工計画、材料（RCC）、情報化施工、無線マネージメント等、総合的な施工技術であると共に、雲仙で誕生し進化した無人化施工は三宅島噴火災害、東日本大震災（原発の応急復旧）で活用されています。

水無川の砂防事業（赤松谷川・水無川・おしが谷）では、無人化施工により初めて造られた水無川1号砂防堰堤（長さ870m）等、数多くの砂防堰堤・床固工が整備され、『今年7月からは赤松谷川（南島原市深江町）において、5号床固工（長さ218m、堤体積9,200m<sup>3</sup>）のRCCを打設します。』本床固工は河床安定のために設置するもので、床固群11基のうちの9基目の建設となります。

皆様、最先端の無人化施工技術で施設整備が進む水無川の砂防事業を是非見学において下さい。

- \* 無人化施工（遠隔操作室から無線によって重機を操作し警戒区域内の工事を行う）
- \* RCC（超固練りのコンクリートを用いた転圧コンクリート）

